

日立ハイテク笠戸地区訪問レポート

運営委員会チーム A

2026年4月17日、SEAJ 運営委員の皆さんをお招きし、日立ハイテク 笠戸地区の見学会を開催しました。笠戸湾に面し、風光明媚な自然に囲まれた山口県下松市の拠点で、主に半導体エッチング装置の開発・生産を行っています。

100年の歴史を持つ日立製作所笠戸地区

工場名にもなっている「笠戸」は、瀬戸内海国立公園に指定されている笠戸島に由来しています。笠戸地区は、1921年の日立製作所笠戸工場の設立から始まり、100年以上の歴史を持つ拠点です。新幹線の車両工場と同じ敷地内に位置しており、半導体製造装置の現場のすぐ横で、鉄道車両の試験や製造が行われている様子を見ることができます。



等戸地区

第一部：工場・歴史記念館の見学

はじめに、下松市や山口県の魅力、そして当社のご紹介を行ったあと、事業所内の各施設を順にご案内しました。

① トレーニングセンタ

エッチング装置の組み立てやメンテナンスの教育を行う施設です。現在、装置はモジュール単位で出荷され、現地



コンダクターエッチング装置9000シリーズ

でドッキングする方式が主流となっており、ここでは顧客や海外拠点のエンジニア向けに実践的なトレーニングを提供しています。また、3D CAD や VR 技術を活用し、仮想空間で装置の内部を確認しながら作業手順を学ぶ次世代の教育環境もご体験いただきました。

② 新製造棟

2025年3月に竣工したエッチング装置の生産工場です。ここでは、チャンバー単位でモジュール検査と出荷を行うことで、工場内のリードタイムを半減させています。さらに、AIが生産・配送計画を自動立案し、床面のQRコードを読み取りながら自律走行するAGV（無人搬送車）が部品を搬送するなど、人手を極力介さないスマートファクトリーの最前線を見学いただきました。最上階の従業員向けフリーアドレス執務エリア（WORK & IKOI エリア）も、見晴らしが良く開放的だと好評でした。



新製造棟



新製造棟の見学



執務エリア (WORK & IKOI エリア)

③ 歴史記念館

蒸気機関車の製造からスタートした日立製作所笠戸工場の歩みをご覧くださいました。鉄道車両製造で培われた溶接技術や真空を作る技術が、1980年代からの半導体製造装置（エッチング装置）の開発へと受け継がれ、当社の今日の事業へと発展してきた歴史的な変遷をご紹介しました。時速300kmの初運転を実現した500系新幹線の実車両も展示されており、鉄道の歴史も体感することができました。

第二部：「ダイバーシティ」に関する意見交換

見学後は、「ダイバーシティ（女性と外国籍の活躍）」をテーマに、参加企業の皆様と意見交換を行いました。各社から、女性管理職比率の向上、男性の育休取得の推進、外国籍社員の積極的な採用や言語の壁への対応など、リアルな課題と取り組み事例が共有されました。企業によって状況や文化は異なりますが、ダイバーシティ推進や人材定着という

共通の悩みに対して、意見交換会からその後の懇親会にかけて、かなり突っ込んだ議論を交わすことができました。

最後に

今回の企画にあたり、100年の歴史を持つモノづくりのDNAと、最新のAIやDXを駆使した製造現場の両面を皆様に見ていただけるようプログラムを構成しました。また、後半のディスカッションでは、技術の進化だけでなく、現場を支える「人」の多様な働き方について皆様から生きたご意見を伺うことができ、大変有意義な時間となりました。

最後にご参加いただいた皆様、遠方より山口県下松市までご来訪いただき本当にありがとうございました。機会がありましたら、ぜひ会員企業の皆さんも日立ハイテク 笠戸地区へお越しください。

(運営委員会副委員長
株式会社日立ハイテク 和田 真一郎)



運営委員会の皆さんと